新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ http://www.echigo.ne.jp/~nma/

会　長　阿部信一
TEL　025-273-1572

事務局　佐藤　博
新潟市江南区亀田水道町1-1-31
TEL　025-381-8141

会報編集委員会代表
遠藤俊一
新潟市西区青山1-13-28
TEL　025-265-4181

第七〇回国民体育大会 山岳競技少年男子結果報告

少年男子監督　田中　勉

今年の国体は「二〇一五紀の国わかやま国体」の愛称で和歌山県において開催されました。山岳競技は南部町で一〇月三～五日の日程で、リード競技は、南部高校屋外競技会場、ボルダリングは南部小学校体育館内特設会場で行われました。

今年は、九月に二〇二〇年東京五輪追加種目にスポーツクライミングが提案されることが決まったことにより、山岳競技は注目競技となり、御皇室、大臣等、大勢の御来賓が見学、視察にお越しになりました。

さてここからは新潟県少年男子の戦いについてご報告いたします。

一〇月三日はリードの予選と決勝が行われました。予選の結果は、猪股義太郎選手は完登目前まで迫る登りで一二位、田中修太選手は下部でハンガーを踏んだと判定され三六位、合計順位一四位で八位までの決勝に進むことは出来ませんでした。戦前の戦力分析では、予選通過は勿論のこと上位入賞も狙えると思っていたので、この結果は正直ショックでした。

一〇月四日はボルダリングの予選が行われました。結果は、八位で予選通過しました。新潟は四完登、一〇アテンプト、ボーナス２　六個、九位の東京は四完登、一〇アテンプト、ボーナス２　五個でした。ボーナス２　一個の差で予選を通過出来ました。

戦前の戦力分析では、ボルダリング予選通過は厳しいかなと思っていたので、十分評価出来るし、選手を褒めてやりたいと思います。

一〇月五日はボルダリング決勝が行われました。結果は、順位を一つ上げての七位、新潟は〇完登、二アテンプト、ボーナス２　一個、八位の佐賀は〇完登、四アテンプト、ボーナス２　一個で、アテンプト二差で佐賀を上回りました。アテンプト差で順位を一つ上げられたのは、普段の練習から一回一回のアテンプトを大切にトライしていた成果だと思います。

全体を通して結果を分析してみると、猪股選手は昨年に続き二回目の国体ということもあり、昨年の経験を生かして冷静に自分の登りに徹して、特にボルダリングでは実力を遺憾なく発揮し七位入賞の原動力になってくれました。

一方田中選手は、初めての国体ではありましたが、六月のこの会場でのリードジャパンカップ予選通過、八月のＪＯＣ優勝などから期待も大きかっただけに、リードの不完全燃焼は否めません。

大会を通して、リードの失敗は、いかなる状況でも自分の実力を発揮出来る冷静さ、精神的強さを身につける必要を感じました。一方、リード予選敗退の落ち込む状況から気持ちを立て直し、ボルダリングで七位入賞を果たした気持ちの強さは評価出来ます。

最後に阿部会長を始め多くの皆様の応援が、選手の背中を押してくれたおかげでボルダリング七位入賞を果たせました。

この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

以上

このほかの国体成績

成年男子

選手	南雲　純太	
	海藤　隼	
リード		二七位
ボルダリング		三五位

成年女子

選手	片桐　麻由子	
	瀧澤　愉未	
リード		一一位
ボルダリング		一五位

救急法講習会開催しました

遭難対策委員長　井春文

十月二五日、救急法、安全登山講習会を参加者二三名で燕市粟生津公民館にて開催しました。

午前中は、昨年同様吉田消防署員による普通救命講習。心肺蘇生、ＡＥＤを中心に行った。初めての方も、何度も受けている方も、いざというときに実行できるよう定期的な訓練が必要と思います。

冒頭、死亡原因についての話もあり、厚生労働省の平成二三年度統計では、一位ガン、二位心疾患、三位肺炎、脳卒中（脳血管疾患）は第四位になったとのことでした。ガン（悪性新生物）は昭和二〇年代から増え続け二九％近くになっている。心疾患も平成六年頃、一時的に減少したがその後また増え続けている。三位の肺炎は昭和二〇年代には減少していたが、昭和四〇年代から増加傾向にあり、平成二三年に脳卒中と入れ替わった。脳卒中は平成七年には増加したが、昭和四〇年代前半から減少傾向にある。ちなみに子供（三歳～一二歳）は交通事故、溺水、次いで火災とのことでした。

午後は遭難を回避するための基礎知識という内容での安全登山講習会。初めに新潟県警、玉木大二朗さんによる講義「山岳遭難発生状況」があり、柏崎で発生した山菜取りの遭難者救助で、安易に考え救助に向かったところ、下山路がわからなくなりリングワンデリングを経験した。着の身着のままでビバーグをして翌日下山をした体験談が語られた。我々登山者も小さな山でも侮らず計画を立て、必要最低限の装備を整えて入山しなければと再認識したお話でした。また遭難発生状況では発生件数八三件（平成二六年度）、全国では一一番目。道迷いによる遭難が依然多いが無事救出も増えている。これは携帯電話の普及に伴い救助要請がとり易くなったことで安易な救助要請が増えている事にも関係していると言う。しかし警察では安易とも思われる要請でも、それ以上大事に至らないために、救助要請には必ず応えるとも話された。

続いて新保遭難対策副委員長による、一九八九年（平成元年）一〇月初旬、急速な冬型気圧配置への変化で立山縦走の一〇名（うち四人は今回が初めて登山）のうち八名の死者が出た気象遭難を例に気象判断、撤退のタイミング等についての講義がなされ、この遭難の状況を検証した。立山駅では快晴であったものの、室堂到着時では下り坂になり小雪も確認されたにも拘らず出発。一ノ越では完全に雪となるも前進を続け、雄山では吹雪となり体調不良で痙攣をおこす者も。大汝山では疲労困憊となり隊は二つに分離するが前進を続け、真砂岳分岐ではついに行動不能となる。

ここで初めて二名で救助要請を試みるが視界不良で別山にてビバーグ。翌日別山の二名が別の登山者に発見され、真砂岳分岐の八名も内蔵助山荘からの救援で発見され、うち二名が生還した。この事故では撤退のタイミングが何度かあった。室堂で行動計画の見直しが出来なかったのか、一ノ越で雪になったにもかかわらず撤退、或は停滞を考えなかったのか。そして雄山で撤退のラストチャンスを逃し悲惨な結末となった。教訓として天気図の確認、現地（山小屋等）からの情報収集。リーダーの判断に従い、また無理だと思ったら遠慮しないで申し出る。ダメだと思ったらすぐの救助要請が大事と話された。そして救助要請のポイントについても話された。

時間の関係で予定していた搬送法の講習はできませんでしたが、みなさん熱心に講習を受けて頂き、質問も多数あり、有意義な講習会だったと思います。参加された方、スタッフの皆さんありがとうございました。また県警の玉木さんには毎年お世話になっております。

今後も安全登山啓発に向け少しでも役に立てるよう講習会を開催したいと思いますので、よろしくお願いします。

（県警玉木講師による講義）

白根山岳会五十周年記念事業「新潟県境踏破」を終えて

白根山岳会々長　長谷川　敏　幸

白根山岳会五十周年記念事業として新潟県境踏破をしようということが決まった日が、五十周年を迎える前年、平成二十年三月の総会だった。その年の三月十六日、日本国山から堀切峠までを第一歩として県境踏破に踏み出しました。

白根山岳会は四季を通じて山に登っている会ですが、ホームグラウンドの山を持っているわけでもなく、先鋭的な山を登る会でもなく、どこにでもあるようなオールラウンドな山岳会です。登山ブームで、有名な山々では若い人たちの姿も多く見受けられるわけですが、本山岳会には若い人の入会は少なく、高齢化が悩みの種です。しかし、今の白根山岳会の力でもあるチームワークの良さと粘り強さで、全員が参加でき、達成した時には大きな喜びが生まれる県境踏破を実施することとしました。そこで、昭和四一年に日本山岳会越後支部が新潟県山岳協会の支援を受けて行った県境踏査の報告書「越後山岳第六号」をバイブルにして、一区から八区に分けて計画を立てる事にしました。

地元の山を持たない我々は日帰りや一，二泊の山行を主にし、会員の多くの参加を前提としました。よって今回その記録をまとめた小誌「新潟県境踏破」は、スーパーマンのような記録とは違い、一般の方々にも参考となるものではないかと思います。一区から八区すべてにおいて県境に達するまでの入山口と、どこに下山するかを探して計画を作る作業が難関でした。「越後山岳第六号」、「知られざる山々」、「新潟の低山・藪山」などの書物やインターネットに載せられている藪山通の報告などからヒントを得て、現地に偵察に行き、そこで会ったマタギの人、地元の人、釣り人の話を聞いて、コースを煮詰めていく作業の連続でした。また、県境の深いところは、三月から五月の残雪期が主になりました。林道の通過が成否を左右することが多くあり、稜線にたっぷりの雪の残るところは、林道がデブリで覆われて最大の難所でした。林道を車で進み、稜線の藪を最小に抑えて歩くには、初雪が降り始めてから本格的な降雪となるまでの間の短いチャンスを見つけねばならず、これも大変でした。また、近年の自然災害で林道の崩壊や鉄道の不通、山奥の部落の閉村や山仕事の減少で荒れ果てた道なども目につきました。

どこも素晴らしい山でしたが、一区では茶畑山から以東岳～重倉山～朝日スーパー林道、針生山～西朝日岳など登山道がつけば朝日連峰の広がりをもっと楽しめると思いました。

二区は飯豊連峰が主ですが、国道一一三号線から大里峠付近ではブナに切り付けの跡が多く見られ、マタギの山らしいことが分かりました。桜峠から県道に出て歩くすがら、玉川のマタギの車に乗せてもらうということもありました。西俣ノ峰～大境山～沼山の稜線は、三月の残雪期でなかなか素晴らしいルートでした。

三区は標高の低い藪の多いルートで最後まで残った区間でした。国道四九号線から土埋山、目指岳、大倉山、夜鷹山など個性のある山々を日帰りでコツコツ歩きました。上田ダムからの山行も何回か通いました。メインの浅草岳から室谷までは、前半の浅草岳～中ノ又山は残雪が多く歩きやすかったです。しかし中ノ又山から室谷までは、会の先鋭メンバーで向かいましたが、そのメンバーをもってしてもげんなりして帰って来ま

ALways Security OK
ALSOK
新潟綜合警備保障㈱
〒950－8633　新潟市東区小金町1－17－20
TEL 025－274－1965　FAX 025－271－3445

魚沼の里
www.uonuma-no-sato.co.jp

魚沼の酒
八海山
www.hakkaisan.co.jp

した。

四区は県境の中でも人気のあるルートを含んでいる巻機山から尾瀬、未丈ヶ岳、毛猛山です。山の雑誌にもよくコース紹介されるだけあって、他のパーティとも会うことがありました。

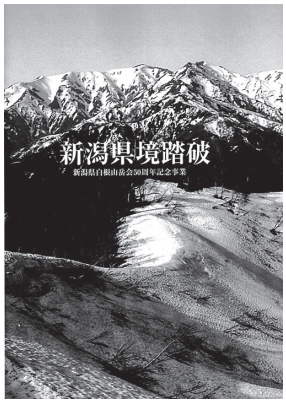
五区は苗場山、谷川連峰です。白砂山から三国峠が難関と考えていましたが、二〇一三年は残雪が多く、思ったより楽に踏破出来ました。逆ルートでは、三坂峠から大黒ノ頭までが登りの熊笹こぎになるので辛いと思います。

六区は唯一、五十年前の県境歩きより楽になっていた区間でした。信越トレイルと名のついた登山道が整備されていたので、会員を各セクションに分けて歩き、二日間で終了しました。

七区は堂津岳から乙見峠を越えて雨飾山ですが、現在、奥裾花から堂津岳まで登山道が復活し、無雪期にも登れるようになりました。ここの区間でえらい目に遭ったのは、乙見峠から天狗原山までのルートでした。三時間ほど密集した根曲がり竹の藪こぎで本当に精根尽き果てました。

八区は北アルプスを含むルートで、白鳥山から境川まで、上路部落から山スキーの人達と登り、スキーヤーはあっという間に滑って行きました。我々はテントを張り、自分たちだけの山を堪能して境川まで下りました。今は亡き小野建さんからもアドバイスをいただきました。

以上ざっと書きましたが、詳細を一冊の本にしましたので、県山協に送らせていただきます。興味がありましたらご覧下さい。



（閲覧希望の団体は、県山協事務局に申し出てください）

一等三角点山行『5』

杉本　敏（長岡ハイキングクラブ）

平成二六年二月一四日伊豆半島を旅行二泊三日しながら三角点山行をするべく準備を整えて当日を待った。ところが天気予報は太平洋岸を低気圧が北上し大雪になるだろうと注意惹起している。毎月山行が途切れそうな雲行きである。この大雪は山梨県など関東一円に大被害を出すことになる。ヘリコプターによる救助。新潟県のプロ除雪隊が援軍に駆け付けて感謝されたり、移動できないトラックが営業用の食料を無料配布したりの想定外騒動になった。

現在の天気予報技術ではほぼ間違いのない結果となる。そこで、県内三角点にまだ二ケ所触ってないので新潟市の「松ケ崎」に変更することにする。当日は関東の降雪など感じることも無い曇り空。長岡から北上するほどに雪が少なくなってくる。楽勝ムードで本日の予定の組み替えを考えながら運転する。現地は松浜稲荷神社境内である。隣に幼稚園があり元気な声が響き渡っていた。下記に当日の記録を転載する。

松ケ崎　マツガサキ　２４
新潟市松浜本町３―４―１
△１　松浜二〇一四・二・一四

太平洋沿岸沿いに大雪警報で、伊豆半島から県内に切り替える。稲荷神社に着いてから大変。地下埋設三角点が雪に覆われていて、白一色の世界。場所の確認ができない。スコップを持ち出し高いところを突っつき、跳ね返る打音でさぐる。神社巡り二回目で、建物裏側で滑り台との間に、マンホール埋設の三角点を発見。蓋を開けて写真を撮る。東側と北側の柱石の面が欠けている。辛うじて一等の一が見れた。柱石は小さいように感じたが測量しなかった。タグが付いていた。昔は展望地だったのか、今は住宅に囲まれ展望ほぼなし。標高が低い三角点の探索を安易に考えていたことを教訓とした。

以上低地の三角点は年々展望が悪くなり、近年は建物の屋上に設置されるところもでてきた。今回は神社境内に残る一五cm位の積雪に一時間近く泣かされた。寒風の中スコップでコツコツ打音を聞く様子は不審者そのものであった。標高をバカにしてはいけない。

賛助会員御入会の御礼

次の皆様から、御入会、御入金を頂きました。
（七月二三日～一一月一日）
御協力ありがとうございました。

中村　光信
（いりやま岳友会）
山崎　幸和
（越後吉田山岳会）
矢澤　建三（悠峰山の会）
（敬称略、順不同）

新潟県山岳協会
会　長　阿部信一
理事長　楡井利幸
総務委員長　宮崎幸司

平成27年度　第１回理事会議事概要

日　時　平成27年９月26日（土）午後１時～同４時まで
場　所　新潟市万代市民会館（美術工芸室411号室）
出席者　27名
（役員26名中、20名出席、過半数により理事会成立）
（顧問・参与15名中、７名出席）

開　会　　会長挨拶
議　事

１　新潟県山岳協会のホームページについて

遠藤会報編集委員長から次の提案があり、承認された。

新潟県山岳協会のホームページの現状は、容量不足により、新山協ニュース等の掲載ができないので、容量が100メガある「さくらレンタルサーバー」に」切り替える。費用はサービス利用料5,142円（１年間）、初期費用1,029円、請求書発行手数料324円である。当面は現状のホームページと両方を維持する。なお、ホームページ担当者は今後会長直属とする。

２　低山ガイド「新潟の山歩き50選」（仮称）の出版について

佐久間副理事長から次のことについて説明があり、承認された。

９月15日、新潟日報事業社から低山ガイド「新潟の山歩き50選」（仮称）の出版が予定されていて、その原稿依頼が新潟県山岳協会にあった。内容は、「新潟ファミリー登山」の後継として「新潟の山歩き50選」（仮称）とし、日帰りで、休憩を含め３時間程度、標高1000m以内、Ａ５版、216頁、５～６千部、平成29年３月発刊を計画している。原稿料は１山２万円。

関連して次の意見などがあった。

○　古いガイドブックを頼りに登ったところは廃道化していて遭難したとみられ事案があった。本に載せるルートには会員が実際に歩いてみて、勧められないルートや消滅の可能性のあるルート等はその旨明記すべきである。複数人でチェックしたほうがいい。

○　印税について、監修したが山岳協会に入るものなのか、という質問があり、担当者（佐久間）から確認してもらうことになった。

○　　本の中で、県山協を紹介することができないかという意見もあった。

３　北信越国体の成績報告及びわかやま国体について

今井競技委員長から第36回北信越国体（富山）の成績報告があり、詳細は、９月発行の新山協ニュースに掲載してあるとの説明があった。引き続き、稲田ジュニア委員長から来年度の少年女子選手が不足していて危機感を持っている。中学３年生から高校３年生までの有望な選手がいたら教えてほしい。福井県のように国体選手募集の広告をホームページに載せてほしい。などの発言があった。その後、楡井理事長か

ら、10月３日～５日の第70回わかやま国体に４人（阿部会長、森副会長、太子技術指導員、楡井）で応援に行くことになっているが、交通費を助成してほしいとの要望があった。これについては、そもそも賛助会費がそのために設けられているものなので、そこから支出すればいいとの助言があり、承認された。

４　山の日の取り組みについて

日山協の平成27年度安全登山啓発事業「山の日」制定記念事業について意見交換をした。

○　執行部案として「みんなでふるさとの山を登ろう」のキャッチフレーズのとおり、８月11日に各山岳会で「持ち山」に登り、山の日制定を祝うようにしたらどうか。日山協の４万円の助成があるので「手ぬぐい」を作りたいとの提案があった。

○　桐生理事からは、山の日が制定されるまでの５年間の流れと、海のウェストン祭との関わりが説明され、県山協・ＪＡＣ越後支部・カタクリクラブの三者で協議したほうがよいのではないか。との発言があった。

○　阿部会長は、海のウェストン祭とは切り離して考えたい。「ふるさとの山に登ろう」という呼びかけに対しては異議のないことであって各山岳会が自然体で動いてくれればいいと考えている。として４月の評議員会までに決定することとした。

５　新規加盟団体と退会について

事務局から、新規加盟の１団体と４名の個人会員、及び退会を希望する１団体を紹介し承認を得ようとしたが、入会申請書などを理事会に示すことができなかった。そのため、理事会構成員に必要な書類を後日配信して特に異議がなければ承認することとした。

理事会終了後の10月７日に入会申請書などを配信した結果、期限の10月19日までに異議がなかったので承認された。

新規加盟団体：小千谷ハイキングクラブ

個人会員：加藤イツ子、五十嵐一夫、梨本茂、齋藤拓（黒埼山の会メンバー）

退会団体：さわがに山岳会

６　中高年安全登山講習会について

阿部会長から、来年度の日山協・中高年安全登山指導者講習会・東部地区（北海道から東海地方）が新潟で開催される。今年度は９月11日～13日、東京都の高尾山で開催され、阿部会長、佐藤事務局長、井遭難対策委員長、成海修（遭対委員）、佐藤真弓（遭対委員）が参加した。参加者・主催者総数90人規模の講習会であるので、来年の新潟での開催にむけて宿泊地の確保などを先行して調整しているとの報告があった。

○　森副会長より、今年度実施の主催者から運営マニュアルを取り寄せてきちんと計画してほしい旨の意見があった。

○　遠藤会報編集委員長から、遭難対策委員会のメンバーが３人参加してきたので講習会の主旨からしても、遭難対策委員会が中心になって運営すべきとの意見があった。

○　　早期に実行委員会を立ち上げて任務分担を決めることを確認した。

7　各専門員会の事業報告　　（省略）

8　各専門委員会の後期事業計画　　（省略）

9　その他

○　ランタン会の渡辺代表から８月16日（日）の二王子岳七滝沢における死亡事故の報告があった。

○　佐久間副理事長から、飯豊・湯の平温泉までの登山道の崩壊箇所に迂回路が付いたが、車の乗り入れはまだできない旨の報告があった。

以上

田中修太君
アジアユース選手権に出場！

八月一四日に富山県南砺市で開催された「第一八回ＪＯＣジュニアオリンピックカップ２０１５」のユースＢで第一位となった田中修太選手（直江津中等教育学校三年）が、一二月三～六日、クアラルンプールで開催されるアジアユース選手権大会に、ユースＢ男子の日本代表として出場することとなった。

この大会は、ＩＦＳＣ（国際スポーツクライミング連盟）の公認競技で、日本選手団は監督、コーチ四名、選手二一名。田中選手はユースＢ男子四名の一人に選ばれた。

スポーツクライミングで、新潟県から日本を代表する選手が出たことは、快挙である。

これを機に、東京オリンピックに向けて、大いなる飛躍を期待したい。

頑張れ！田中修太君

編集後記

▲２０２０東京五輪の追加種目の一つとして、スポーツクライミングがＩＯＣに提案されることとなった。

▲国内では、追加種目として、野球、ソフトボールや空手が注目されていて、スポーツクライミングが有力種目との報道は少なかった。

▲二月、国際スポーツクライミング連盟会長が来日、関係各方面にアピールした。そして、日山協に対し、ヒマラヤの頂を目指すようにＪＯＣに粛々とアプローチしていけば必ず夢は叶うと語って、離日したという。

▲多くの種目が名乗りを上げ、スポーツクライミングが五種目に入るのか、半信半疑であったが、夢実現となった。

▲これを機にした県内の競技人口の増加や競技施設の充実が、我々にとっての課題。一二月には第一回の小学生大会が開催される。成功を願う。

（遠藤　記）

登山・ハイキング・クライミング
テレマーク＆山スキー
Mountain & Outdoor Parr Mark
パーマーク
長岡市西宮内2-97（長岡市役所裏通り）
TEL0258(37)1200・FAX0258(33)1164
●営業時間/AM10:30～PM8:00水曜定休
http://www.parrmark.co.jp

登山・スキー・テニスの専門店
ヒトと地球のインターフェイス
ICI石井スポーツ
新潟店
新潟市中央区堀之内南1丁目16-52　TEL(025)241-5134
営業時間／平日10:30am～8:00pm　休日10:30am～7:00pm

第１回小学生ボルダリング新潟県選手権大会の開催案内

この度、スポーツクライミングが東京オリンピック候補に提案され、ますますクライミングが周知され、選手層が厚くなってくることが期待されます。
オリンピック種目への候補提案を記念し、競技の普及と選手間の交流を目的とした大会を実施いたします。
尚、スポーツクライミング全国大会、県代表の選考も兼ねます。

主　　催　新潟県山岳協会
主　　管　上越市山岳連盟　　ジュニア委員会
協　　賛　ICI石井スポーツ新潟店　　パーマーク
会　　場　柿崎総合体育館　　クライミングウオール
住　　所　上越市柿崎区法音寺７３０－１
月　　日　１２月６日（日）
　　受　付　　８：３０～　８：５０
　　開始式　　９：００
　　予選競技開始　９：３０～
　　決　勝　　１４：００～
カテゴリー　小学生女子の部、　小学生男子の部
競技方法　予選　　オンサイト　８課題　　（２課題５分）
　　決勝　　オンサイト　４課題　　（２課題５分）
参 加 費　２５００円
申込み方法　参加申込書を下記迄郵送、又は持参のこと
申 込 先　〒949-3241 上越市柿崎区百木1023　稲田春男
申込み締切日　１２月１日